

平成29年度 岡本特別支援学校 学校評価

教育目標、学校経営方針

教育目標	児童生徒の病状、障害に応じた教育を行い、一人ひとりの個性、能力、創造性を伸ばし、社会に参加、貢献できる人間を育成する。
学校経営方針	1 安全で安心して学べる学校環境づくりに努める。 2 児童生徒を中心に据え、一人一人の実態とニーズに応じた教育を行う。 3 学校・家庭・地域が一体となった学校づくりに努める。

A:達成できた(80%以上) B:概ね達成できた(50~80%) C:達成できていない(50%以下)

重点目標	評価項目(重点課題)	現状	達成目標	評価の観点	評価	改善策
1 健康・安全教育の充実 ○児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、危機管理マニュアル等を見直し、教職員の安全に対する意識を高める。児童生徒が主体的に身体の状態の維持・改善を図ることができるよう、実態に応じた自立活動の指導を行う。	(高等部) 病気や障害と正しく向き合い、健康で豊かな生活を送るための意識の向上。	・病気からくる生活制限、活動制限、心理的不安等がある。 ・障害による行動調整の難しさから、良好な人間関係を築くことが苦手である。	・いろいろな活動を通して、情緒の安定を図り、自己肯定感をもてるようにする。 ・自分を理解し、他者を尊重する力を育む。	・自立活動の指導案等から適切な個々の目標を設定し、記録表で生徒の変容を検討していくことができたか。 ・自分を大切にしながら、他者に関心をもったり思いやりたりする場面が見られたか。	【A】 ・自立活動の時間において、個別の目標を設定し、好きな活動を一緒に行いながら、情緒の安定を図ることができた。また、教員と一対一で話をすることで、自己理解や自己肯定の気持ちを少しずつ育むことができた。 ・集団で行う活動や話し合う場面を設定し、相手を理解し受け入れ、思いやる気持ちが少しずつ育まれてきた。	・今年度の自立活動の取組を今後も継続していきながら、さらに自己理解を深め、キャリア教育とも連動させながら、社会生活の中で生きる力を育てていく。
	(学籍・情報管理部) 情報管理の適正化。	・昨年度、転出に伴う書類の送付先を間違える事故があった。その後、マニュアルを改訂して、事故防止に努めている。	・学籍関係の書類の取り扱いに、間違いが無いように、マニュアルの活用、改善をしていく。	・学籍関係の書類の取扱事故がなかったか。	【A】 ・取扱事故は氏名の字体ミスと日本スポーツ振興センターのチェック漏れの、計2件であった。1月末までの取扱件数は130件であるので、ほぼ達成できた。 ・さらに、事故0を目指して工夫する必要がある。	・「教頭メモ」、手順書、教育相談記録(支援部管轄)を見直して、チェック欄や説明を追加する。 ▶修正完了・運用中
	(健康安全指導部) 災害発生時における児童生徒の引き渡しカードの検討と訓練の実施、及び家庭との連絡体制の構築。	・本校児童生徒通学生は保護者送迎が基本のため、緊急時の対応については、一斉メールまたは各担任からの電話連絡である。	・災害や事件発生等により、児童生徒が学校待機となった場合を想定し、保護者への引き渡し訓練を行い、より安全でより安心できる学校環境を整える。	・災害や事件発生等により、児童生徒が学校待機となった場合を想定し、確実に保護者への引き渡しを行うことができたか。	【A】 ・災害発生時の対応の一つとして初めての引き渡し訓練を実施したが、概ね問題なく行えた。職員対象の事前説明を行い、共通理解を図れたこともスムーズな訓練実施へとつながったのではと考える。今後も検討を重ねよりよい訓練を目指していく。	・訓練実施後の反省では、職員の配置等で検討すべき事項が挙げられたので、部内で検討し、実施細案等に追記した。また、引き渡し訓練に参加できなかった保護者へは、担任を通して確認していただくように手配済みである。 ・既存の防災マニュアルに掲載することを検討しながら、今後も全職員の協力を得て行っていく。
2 基礎学力の定着 ○一人一人のニーズに応じた学習を展開できるよう、教科等部会などを通して指導内容の精選や指導方法の工夫・改善を行う。成果を共有することにより、授業力の向上を目指す。	(小学部) 児童の学習課題の把握に努め、情報共有に基づいた指導。	・児童の実態の変化に伴い、学習上の課題が多様になっている。学部全体で情報を共有し、取り組んでいこうと考える。	・児童の学習課題を把握し、それに対する課題・対策を学部で情報共有しながら検討し実践する。	・情報共有、検討の場を必要に応じて設けられたか。 ・課題達成へ工夫を重ね、成果を出すことができたか。	【B】 ・場を設けての話し合いは報告・情報交換的で、内容的な部分に踏み込むまでにはいかなかった。年度当初から計画的に考えていく必要があったと思う。これまでとは学部の実態が異なる状況になり、今後より一層学部全体での取組が必要になると思うので、改善策を検討しておきたい。	・年度当初に担任を中心に取組の方向性などを確認する場を設ける。 ・学部会での情報交換時には指導に関する内容についても報告するようにしてみる。 ・評価の時期には全体で確認し合う場を設けていく。 ・次年度を見据えて、今年度末に評価・次年度の目標などについて試行してみる。
	(中学部) 個々の学力に応じた目標設定と指導方法の工夫。	・個々の学習の習得状況の把握に努め、日頃から情報交換を行って授業に活かしている。 ・体調により授業に出られない生徒もいる。	・個々について把握した情報を共有し、目標の設定や指導方法の工夫を図る。	・生徒に関する情報交換の場を必要に応じて設定することができたか。 ・情報を共有し、目標の設定や指導方法を工夫することができたか。	【A】 ・個々の実態についての情報交換は良好に行え、情報の共有ができた。目標の設定や指導方法の工夫が図れた。	・継続して実態把握を行う。 ・情報交換を行い、指導に生かす。
	(おおり分教室) 児童生徒の多面的な把握による適切な指導計画の作成。	・病状や入院前の登校状況によって一人一人の学習の状況に違いがある。	・転籍後速やかに個別の指導計画を作成し、共通理解のもとに指導する。	・転籍後1週間で、個別の指導計画を作成することができたか。 ・個別の指導計画の互審及び内容の共有ができたか。	【A】 ・転籍後速やかに個別の指導計画を作成し、共通理解のもとに指導することができた。分教室で学習がスタートする時点で、最低限必要な情報の確認及び共通理解の方法としては、効果的な取組と考える。	・加筆、訂正した内容についての周知の方法について検討する。 ・項目、内容については随時検討していく。
	(学習指導部) 児童生徒が主体的に学習に取り組むようにするための各教科等の指導の充実。	・個別の教育支援計画について、県教委から示された資料等を参考にして、書き方や様式などを見直している。 ・教科等部会が組織されているので、年間指導計画の作成等より効果的に活動できるとよい。	・一人ひとりの実態に即した指導の基となる個別の教育支援計画(指導計画)の新様式の試行を始める。 ・指導の核となる教科別の指導を充実させるため、教科等部会の活性化を図る。	・個別の教育支援計画(指導計画)の新様式を試行し、次年度に向けた改善点等をまとめることができたか。 ・教科等部会を定期的に開いて学部間の連携を図り、教材等の整理や把握ができたか。	【B】 ・分教室、院内学級ではそれぞれに作成した新様式を試行できた。小・中・高等部では県から示された様式を基にして新様式を作成し、保護者の理解を得ながら重複障害学級で試行できた。通常の学級では、次年度試行に向けて最終確認を行っている。 ・定期的に関くことができ教材等の整理や把握が進んだ。学部間の連携を図りつつあるが、年間指導計画への反映などが途中となっている。	・試行した結果を振り返り、様式の更なる改善を図る。職員や保護者への説明を丁寧に行い、同意を得ながら実施していく。 ・引き続き教科等部会を推進し、学部間の連携を進め、指導力の向上を目指していく。

<p>3 体験的学習の充実</p> <p>○病気等による児童生徒の体験不足を補うため、体験的な活動を工夫し、効果的な学習を進める。保護者や関係機関、地域との連携を強化し、本校の教育活動への理解を深めると共に、病弱教育におけるセンター的機能の充実に努める。</p>	<p>(やしお学級)</p> <p>無理なく環境の変化に対応できるようにするための指導の工夫。</p>	<p>・病状や障害の状況から、個別の活動が多く、授業担当以外の教員や児童生徒との関わりが少ない状況となっている。</p>	<p>・交流及び共同学習、学校行事、病棟行事への参加方法を検討する。</p> <p>・時間割、授業担当者、行事参加方法を検討する。</p>	<p>・児童生徒相互のやりとりとなる活動内容を提案し、実施することができたか。</p> <p>・授業担当者とその人数を適切に設定するとともに、生活経験の幅を広げる授業内容とすることができたか。</p>	<p>【A】</p> <p>・離床できない児童生徒についても、可能な限り活動に取り組む機会を持つことができた。また該当学年との交流ということで、他学部の協力を得て、共同作品等を作ることができた。</p> <p>・やしおの児童生徒は、やしおの教員全員で関わっていくという意識をもって取り組むことができたと思われる。</p>	<p>・感染症対策の観点から、いろいろな人との関わりの取り組み時期を考慮する必要がある。</p> <p>・今後も離床できない児童生徒が増えていくことが予想されることから、やしお学級内だけでなく、さらに他学部からの理解と協力を得ることにより、本校児童生徒としての取り組みが工夫していけるとよい。</p>
	<p>(教育計画部)</p> <p>地域の人材を活用した地域との連携。</p>	<p>・通学圏が全県で広範囲なため地域との結びつきがやや弱い。学校所在地の岡本地区での地域との連携を模索している。</p>	<p>・地域の人材を活用した授業や研修への協力者を得る。</p> <p>・地域(岡本地区)での取組状況を把握し、本校としての関わり方を検討し、実践する。</p>	<p>・学校内のニーズを把握し、地域から適切な人材等の協力を得ることができたか。</p> <p>・地域や学校の現状を把握し、本校としての関わり方について方向性を見定めることができたか。</p>	<p>【A】</p> <p>・今年度まちづくり協議会に参加し、河内地区の作品展に出展した。また、ミニ研修でニーズに応じて、外部の人材を活用して研修を行った。</p> <p>・部として地域資源について理解が不十分であり、学習場面でのニーズの把握もできず、地域との結びつきが弱かった。</p> <p>・地域資源についての活用について具体的な方法を示すことができなかった。</p>	<p>・新学習指導要領の「開かれた教育課程」の実現に向けて、地域資源を有効に活用するための方策について引き続き検討していく。</p> <p>(具体的な取組)</p> <p>・地域の資源の把握及び周知</p> <p>・学習場面でのニーズの把握</p> <p>・人材を活用するためのシステム作り。</p> <p>・学校だより等を活用した地域への啓発。</p>
	<p>(進路・卒後支援部)</p> <p>キャリア教育の取組についての具体化と共有。</p>	<p>・キャリア教育の全体計画を意識して指導計画を立てており、教員それぞれに任されている。</p> <p>・キャリア教育の全体計画を意識し、各学部で重点目標や達成のための学習活動を設定して取り組み、その様子を進路だよりに掲載する。</p>	<p>・各学部で重点目標を設定し、実践の様子を進路だよりに掲載する。</p> <p>・各学部で重点目標達成のための学習活動を継続、あるいは発展させ、キャリア発達を促す。</p>	<p>・重点目標に沿って実践し、各学部で実践内容を話し合い、取り組みを進路だよりに報告することができたか。</p> <p>・各学部の取組について、キャリア発達という観点で話し合い、進路だよりに報告することができたか。</p>	<p>【A】</p> <p>・各学部の担当を決め、取り組みの様子を予定通り進路だよりに掲載することができた。進路だよりに職員にもよく読んでもらうために、メール配信ではなく印刷して配付したい。次年度、キャリア教育の別の観点も含め、取り組みを継続させたい。</p>	<p>・小学部段階から進路指導を進めるために、高等部卒業後の進路選択に向けて、各学部で取り組んでほしいことについて情報を伝える機会を作って共通理解を図る。</p> <p>・印刷して全職員に配付し、見やすいところに廊下掲示する。また、発行回数や内容を見直して充実を図る。</p>
	<p>(渉外部)</p> <p>PTA活動の充実。</p>	<p>・話し合いに参加できる保護者の人数が少ないため、多くの保護者の意見を反映するためのアンケートを実施してから話し合いに臨んでいる。参加できなかった保護者には活動の様子が伝わりにくい。</p>	<p>・アンケートを活用する。</p> <p>・活動の内容・様子・成果等を校内に発信する。</p>	<p>・活動の様子の写真や、できあがった作品、参加者の感想などを校内に提示したり、ホームページに載せたりして広く発信することができたか。</p>	<p>【A】</p> <p>・活動自体は保護者に楽しんでもらえ、保護者同士、保護者と教員との橋渡しの一助となることができた。</p> <p>・ホームページでの発信が少なかった。</p> <p>・少人数のメリット・デメリットがある。</p> <p>・行事の内容そのものについても保護者と一緒に検討していくことが必要である。</p>	<p>・PTA活動を負担ではなく楽しみにしてもらえよう工夫を引き続きしていく。</p> <p>(具体的な取組)</p> <p>・引き続き、アンケートや会議等で保護者の要望を吸い上げていく。</p> <p>・発信の仕方を工夫する。(ホームページの積極的な活用、参加保護者の感想など)</p>
	<p>(支援部)</p> <p>センター的機能の充実を目指した医療等関係機関との連携。</p>	<p>・様々なケースがあり、関係機関が多岐にわたるため、継続しての連携が図りにくい状況である。</p>	<p>・スムーズな転出入・就学に向けて、必要な関係機関との連携の時期等を検討・工夫する。</p>	<p>・転入・転出、就学の際の医療等関係機関との連携の流れを整理できたか。</p>	<p>【B】</p> <p>・本校の特性より、様々な時期に転出入があることを考えると、(各主事主任を中心としてだが)一部の教員ではなく全員の教員が「手続きの流れ」を確認できるようなものがあると良い。</p> <p>・やしお学級については、支援部として就学の流れをまとめる必要がある。</p>	<p>・今後、支援部・学部主事だけでなく、学校全員の教員が流れが分かるようなマニュアルを作成する。</p>